

第4回研究推進体「ストレス」フォーラム

神経系細胞の環境変化への応答

日時: 2011年9月28日(水曜) 17:30 – 20:00

場所: 山口大学医学部基礎研究棟1階カンファレンスルーム

司会: 澤田知夫(器官解剖学) 岸博子(生体機能分子制御学)

演題

- 1 「Role of FABP7 in astrocyte proliferation」
Kazem Sharifi (器官解剖学)
- 2 「膠芽腫の病態を規定する幹細胞の探索」
石井 文彩 (病理形態学)
- 3 「血管平滑筋アクチン・ストレスファイバーの形成における
パキシリンの重要性」 張 影 (生体機能分子制御学)
- 4 「コレステロールが及ぼす血管平滑筋へのストレスと攣縮機構」
白尾 敏之 (脳神経外科学)
- 5 「ヒストン脱アセチル化酵素の早期抗うつ効果発現における
分子機構の探索」 芳原 輝之 (高次脳機能病態学)

神経系を構成する細胞は、環境変化に様々な反応を示します。その過剰な応答や制御機構の破綻により、脳虚血、腫瘍、精神障害など多くの病態が引き起こされます。今回のストレスフォーラムでは、神経および血管系細胞を用いた研究を行っている若手の学内研究者に、現在進めている研究内容について紹介していただき、活発な議論を行いたい、と考えています。

興味のある研究者、大学院生、学部学生の皆さま、是非ご参加ください。

主催: 山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患のための戦略」

連絡先 器官解剖学(2202)